

小学五年

国語

解答と解説

問三	問一	問六	問四	問三	問一
工	イ	工	④ 才	な り た か つ た ま だ 幼 稚 園	ウ 、 少 し で も 前 ら も 向 き な 氣 持 ち に
問四	問二	問七	⑤ ウ	見 て 、 少 し で も 前 向 き な 氣 持 ち に	ク シ ン グ の 練 習 を る あ の 子 を
咄	A	ウ	⑥ イ	ボ	
嗟	自然	ア	問九		
に	現象	イ	問十		
多	(元答)	工			
数	B				
問五					
ウ					
問六					
冷					
静					
問七					
イ					

5		4		3		問九		問八	
⑥	粉	①	経	キ	才	機	C	均	考
	末		歴	ウ	工	械	A	質	え
62		57		52	53	47		な	る
⑦	集	②	輸	才	コ	化		サ	能
	団		血	ウ	キ	さ		力	力
63		58		54	55	48	45		
⑧	混	③	公	工	キ	れ			
			務	55	56	問十			
64		59				ウ	46		
⑨	寄	④	墓	⑤	イ				
			石		51				
65		60							
⑩	育	⑤	駅						
			弁						
66		61							

(配点)
 〔1〕〔問三〕 8点、〔問四〕 各2点、他各5点
 〔2〕〔問八〕 6点、他各5点
 〔3〕〔問九〕 各2点

計150点

1 **解説**
蒼沼洋人

『光の粒が舞いあがる』(PHP研究所)から出題しました。自分を変えたいと思いながらも、波風をたてないために自らを押し殺して日々を過ごしている「わたし」と、ボクシングに打ち込む少女が対照的に描かれています。

問一 **B1 理由 比較**

——線①の直後から、休み時間が「一番しんどい」理由が書かれています。「杏が…言葉を吐きだすたび、みんなの大げさな相槌がはじまる。…よくやるなあこの子たち」とあきれているくせに、人一倍大げさに、全力でうなずいているのはわたくしだ」とあります。「はみださないように、目立たないように。グルーピにいるためには、見えないルールがたくさんある」、そのことを「つかれる」と思いながらも、「興味がなくともあるふりをして…探りを入れ」るほど、「わたし」はグルーピにしがみついています。周りの子たちのことにあきれながらも、グルーピにいるために、数々の無理をしている自分をさげすんでいることが分かります。よつて答えはウです。ア「杏がおしつけてくるルール」の部分が不適切です。イ「同じグルーピだと思われることを、恥ずかしく思っている」とは本文中に示されていません。またア・イともに、無理をしてグルーピにしがみついている自分が嫌いになつていてことに触れられていません。エ「他人のプライベート…を探る自分があさましく」の部分が不適切です。

問二

1 **B1 具体化 比較**

杏のこわさは、——線②直後の二段落に具体的に書かれています。どこからか仕入れてきた、いろいろな人の「家庭事情」や「驚くような裏話」を、「雑談のなかの絶妙なタイミングで、上手にネタにして笑いをとる」とあります。杏は、他人のプライベートな話を、自分も話を聞いた人も悪者に思わせないような口ぶりで暴露するのです。ですから答えはアです。イ「わたし」はびくびくしたでしようが、杏が「野村さんは歯医者であることを…におわせ」たとはここからは読み取れません。ウ「孤立させるために」、エ「その友達の秘密…を全部把握」の部分が不適切です。

2 **B1 置換**

——線③の六行前に「もし、うちのお母さんことを杏が知つたらどうなるんだろう。考えただけで、背筋が冷えた」という、「わたし」の家の事情を知られたらと不安になつていることがわかる表現があります。その気持ちがあらわれた「しぐさ」はこの直前の「笑いながら、ぎゅつと自分の腕をつかむ」という動作です。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問三 **B2 理由 推論**

「歩道橋に向かった」のは「あの子の練習」を見るためです。「あの子の練習を見よう」と思ったのはなぜでしょう。「わたし」が練習を見てどのような気持ちになるかを読み取ります。練習

のシーンが続き、その最後に（中略の前）「あの鋭い動きが：わたしの胸のもやもやを全部叩きつぶしてくれたらいいのに」とあります。また、次の日の放課後、練習を見に行つたときの感想が——線⑩以降の段落に書かれています。「いつもなら：ネガティブな気持ちは遠のいていく。でも：胸の奥で大きくふくらんだもやもやは、もうどうにも止まらなかつた」とあります。以上のことから、「わたし」は、①あの子の練習している姿を見れば、②「ネガティブな気持ち」を遠のけることができる（前向きな気持ちになれる・気持ちのもやもやが晴れる）と思つてゐるから、「歩道橋に向かつた」のだとわかります。理由を聞かれていますから、文末は「——から」にしましよう。

※設問の指示や字数・文字指定に従つていなきものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問四

B1 関係づけ 比較

文の前後を読んで空欄に言葉をあてはめます。④歩道

橋に向かえば、ネガティブな気持ちを遠のけられる、と「わたし」が思つてゐることから、「あの子」はいつもジムで練習していると考えられます。ですから、ここには「やっぱり」が入ります。⑤格闘技とはいえないまでも、だれかと対戦するという意味で、剣道や空手を出してきてはいるのでしょうか、ここには「せいぜい」があてはまります。⑥直前に「格闘技に興味はなかつた」とあり、直後に「暴力が苦手だ」とあります。まずもつて、という意味でしようから、ここには「そもそも」が入ります。

問五 B1 理由 具体化

「暴力が苦手」なのは、過去に両親のひどい夫婦喧嘩を見てしまつたからです。「わたし」が「暴力が苦手」であることを語つた——線⑦の三文後から、「いつか見た光景が……」と過去を思い出しています。その光景が具体的に書かれているのは、「まだ幼稚園に……」の段落です。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問六 B1 具体化 比較

——線⑧の直前に「え？ いつから？」とあるように、「わたし」は長崎くんと柚葉がつきあいそうとも思つていなかつたことがわかります。今日の前で起きていることが「現実」とは思えなかつた、ということですから、答えはエです。ア「仲良くなっているのが奇妙」、ウ「幻想的」とは読み取れません。いつきあつてることを言つていなかつたからといって「裏切つていた」は言い過ぎです。

問七 B1 理由 比較

——線⑨の直前の「自分がショックを受けてるなんて思いたくなくて」とは、柚葉と長崎くんのことでおちこんでいる自分の気持ちを認めたくない、ということです。その気持ちを直視したくない、忘れないから楽しいふりを一生懸命してはいたのでしょうか。ですから答えはウです。ア「何もかもどうでもよくなつた」、イ「仲を深める」「裏切つた」、エ「グーループの：気を遣わせてはいけない」などの部分が本文から読み取れません。

問八

B1

具体化 比較

母親との関係、柚葉たちとの関係でやり場のない気持ちを「わたし」はかかえています。そんな中でも空は美しく晴れ渡つて、『やり場のない気持ち』が対比構造によつて際立つてきます。ですから、答えはAです。イ「憎しみにとらわれている」「みにくさ」、ウ「これからが明るいものになることを示唆」、エ「自分のことを思つてくれる人がいない孤独な『わたし』を表現」の部分が本文の内容とあいません。エ「わたし」の抱えている孤独は、「自分のことを思つてくれる人がいない」というより、家庭の事情に翻弄されているうちに、小学校から築いてきた友人関係が、いつのまにか変質してしまつていていたことにあります。だからこそやるせないのであります。

問九

B1

理由 比較

「ここ」は「わたし」がいる場所、「向こう」は女の子が練習している場所です。その女の子と「わたし」の違いは何かといふと、女の子は「好きなことに全力で打ちこめる人」なのに対し、「わたし」はグループの一員でいるために自分の気持ちをいつわり、周りの目を気にしながら行動する人です。「わたし」は自分がそういう人間であることに自覚的ですから、「ここと向こうは別世界だ」と感じたのでしよう。ア「悩みなど何ひとつなさそう」、ウ「なんの目標もなく」「わたし」のような人間がいるなど信じられない」、エ「社会的格差」などの表現が本文の内容とあいません。

問十

B1

具体化 比較

——線⑫の直前の段落に、「…光が、金色の雨のように…降りそそぐ…あまりにもまぶしくて…ただただ、きれいで」とありますから、「わたし」は、「好きなことに全力で打ちこめる人の美しさに感動しているのだとわかります。一方で、それは「わたし」には永遠に届かない」ものだとも痛感し、傷ついています。いろいろな気持ちがあふれて、涙がとまらなくなつたのだと考えられますから、答えはエです。アは「うれしい」という一つの気持ちしか示されていません。イは感情の制御ができるない場面ですから「反省」という表現はいません。また「好きなことをやろうと決心」もこの部分からは読み取れません。ウは「自分があわれ」とありますから、「わたし」は自分のことをあわれんだけはしていません。また、「同年代の女の子はみんな」という表現も不適切ですし、女の子の姿に感動しているという表現もないのです。

2

森博嗣『悲観する力』(幻冬舎)からの出題です。人間は「自然の一部」であるがゆえに、ミスができます。起こりうる事象を想像し、それをどう回避し、回避できない場合はどう被害を最小限にするか:ということで、人間は「機械による制御、あるいは支援」を選びました。そのおかげで、有事に人間は「冷静」でいられ、「未知の障害に備えることに注力」できるようになっています。人間の大きいなる「悲観」から生まれたAIが発達すれば、それすらも機械に頼ればいいということになります。今、現代人のほとんどは、自分で検討・判断することを放棄し、マニアリ通りに働き、休日までもメディアに踊らされその通りに動くことに何の疑問も持たない「機械化された人間」になつ

ています。筆者は人間がA-Iに支配されるのではなく、無駄なものとして滅ぼされることになるだろうと「悲観」しています。

問一 **B1 理由 比較**

冒頭に、「これ（防災訓練）は、災害が発生したときにパニックにならない冷静さを養うため」とあります。また、それは「具体的に何をするのか、どこへどう避難するのか、といったことは二の次にされている」ともありますので、ア「おそろしさを人々に知らしめる」、ウ「災害が起きたとき、何をすべきか、どの道で逃げるのかなどを細かく定め周知しておく」、エ「マニュアルを守ることの大切さを伝えるため」といった表現があるため不適切です。ここで言う「悲観的に想定」というのは、災害というものは必ず起きると想定するということです。そうすることで災害が起ることを人々に意識させ、「災害が発生したときにパニックにならない冷静さを養」つているのだと考えられます。

問二 **B1 具体化 関係づけ**

線②の二文後から理由が示されています。「予想もしない：い：計器の故障などは、自然現象と捉える方が理解しやすい：さらに、人間が判断を誤つたり、勘違いした結果発生する事故（これが人災）もあるが、これもまた人間が自然の一部だからである」とあります。「人間が判断を誤つたり、勘違い」したり、ということをその次の段落で「自然である人間のミス」と言い換えています。この部分から決められた字数で言葉を抜き出します。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とし

ます。

問三 **B1 具体化 比較**

線③を含む一文は、「これがなかつたら、不可能なもの非常に多い」とあり、直後の文で、「たとえば、人間が：できたことも、コンピュータのおかげである。」と具体的に補足説明をしています。ですから、「これ」というのはコンピュータだと考えられます。

問四 **B1 具体化 関係づけ**

設問に「機械は人間とは違い、どうすることが可能なのですか」とあるので、機械ができて、人間ができないことを読み取りましょう。——線④の次の段落に「どんなに冷静で判断力がある監視役がいたとしても、咄嗟に多数の対応ができるわけではない」とあります。機械は「起こりうる事象を想像し：どうすれば被害を最小限にできるか、という判断をあらかじめして」いるので、それが可能なのです。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五 **B1 具体化 比較**

問一でも触れましたが、本文において、筆者は「悲観」をマインズの意味で使つていません。何とかなると樂觀するのではなく、備えるために、念には念を入れて最悪の事象をふくめたあらゆる事象を想定することを「悲観」と言つているのです。——線⑤直後にもあるように、「起こりうる事象を想像し：どうすれば被害を最小限にできるか、という判断をあらかじめし

て」とあります。ですから答えはウです。

問六 **B1** 関係づけ

⑥を含む一文は、「これらのシステム（コンピュータによる制御＝機械に任せること）があるから、人間は『⑥』でいられる」という一文です。読み進めると、二段落後に「機械に任せることで、人間は理想的な『冷静』を手に入れることができ：未知の障害に備えることに注力できる」という似た表現があります。以上のことから、ここには「冷静」という言葉があてはまります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七 **B1** 具体化 比較

筆者は、本文中で「楽観」という言葉をプラスの意味で使ってはいません。「つきつめてものを考えていない」「甘く考えている」という意味で使っています。——線⑦の二文後からを読みましょう。筆者は、「人間よりも機械の方が優れている」から、「機械に仕事を委ね」てきたという歴史があるのであって、「A Iが人間に代わって仕事をすること」が実現しようとしている現代は、来るべくしてきたものだととらえています。——線⑦のように「A Iが人間の仕事を奪うと恐れ」たり、「仕事は人間がするもの」と考えたりすること自体がかなり遅れている考え方だと思っているのです。よつて、答えはイです。

問八

B1 理由 関係づけ

——線⑧を含む段落を読みましょう。そこには、マニュアル

とはどういうものか、そして、「マニュアル化」することで「均質なサービス」が実現することが書かれています。リード文に従い、適切な言葉を書き抜きましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問九 **B1** 具体化 関係づけ

——線⑨を含む段落には、「現代人の多くは、既に機械化された人間」だと言える理由が具体的に書かれています。——線⑨はその理由に当たる部分です。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問十 **B1** 具体化 比較

——線⑩を含む段落を読みましょう。「A Iが社会を支配し、人間を排除する」と考えること自体が「楽観」だ、甘い考えだと筆者は言っています。そして、——線⑩の直後で「もし、それで人間が滅びるなら、それで良い」というのが：僕の悲観的な想像である」とも言っています。筆者は、「エネルギー的に無駄が多すぎる」人間など、「合理的に判断する」A Iは支配などせず、滅ぼすだけだと考えているのです。ですから答えはウです。ア・イ・エはどれもA Iと人間が共生しておらず、A Iがつくるだろう世界を楽観的に想像したものです。

③ A 1 知識

四字熟語の問題です。一語の中に同じ漢字が入るものや反対の意味の漢字が入るもの、漢数字が入るもののはよく出題されます。

- ① **以心伝心**：口に出さなくとも、相手に考え方や気持ちが伝わること。
- ② **自画自賛**：（自分で描いた絵に自分で言葉を書き入れること）
から）自分で自分をほめること。
- ③ **不平不満**：自分の希望通りにならず物足りないこと。またそれを述べる言葉。
- ④ **半信半疑**：半分信じ、半分疑うこと。本当かどうか迷うこと。
- ⑤ **共存共榮**：違った性質や考え方の人がともに助け合って生きること。

④ A 2 知識 比較

敬語の問題です。その動作をしているのが相手なら尊敬語、自分（自分側）なら謙譲語を使います。

- ① 「行く」のは話者である「わたし」でしようから、謙譲語の「うかがう」を使います。
- ② 「のむ」のは話者である「わたし」でしようから、謙譲語の「いただく」を使います。
- ③ 「すわる」のは先生ですから、尊敬語の「おかげになる」を使います。
- ④ 「言う」のは話者である「わたし」でしようから、謙譲語の「申し上げる」を使います。
- ⑤ 「見せる」のは話者である「わたし」でしようから、謙譲語の「お目にかける」を使います。